# 一泉

発行所
〒921-8116
金沢市泉野出町３丁目10－10
石川県立金沢泉丘高校内
一泉同窓会
電　話（076）242－0211
ＦＡＸ（076）242－0211
1998．5．1．発行

## 在校生とともに50周年を祝おう！

## 金沢泉丘高校創立50周年記念祭

### 1998（平成10）年8月30日（日）～9月2日（水）

（1997年の一泉行列、一中ＯＢが４名参加）

今年は、泉丘高校創立50周年の節目の年となる。学校側と相談のうえ、一泉同窓会も在校生とともに創立記念祭を祝おうということにした。

泉丘高校の創立記念日は、一中の創立記念日（厳霜碑の除幕された1908・明治41年10月15日に制定）と同じ10月15日。創立以来この日を中心に記念行事が実施されてきたが、大学入試制度の変革（共通一次試験・センター試験）にともない、創立記念祭は夏休み明けの９月初めに移され現在に至っている。

本年は、一泉同窓生が参加しやすいようにと、学校側にもご配慮を頂き、創立記念祭の第１日目は休日の８月30日の日曜日となった。一泉同窓会の皆様、お誘い合わせのうえ、ご参加下さい。

第１日目の行事は、金沢市本多町観光会館での記念講演。講師は、山口大学長でフィールド賞受賞の世界的数学者広中平祐氏。講演に先立ち午前９時30分から中山修校長（泉丘10期）の挨拶、10時から鶴見綾さん（泉丘44期・東京芸大修士課程在学中の新進気鋭のピアニスト）のピアノリサイタルがあり、10時30分から講演会の予定です。

30日は午後１時から“一泉行列”が行なわれる。“一泉行列”は、一泉創立100周年（1993）を機に、創立記念祭の前日祭として1990年から毎年行なわれている。本多町にあった一中が、今の泉野原頭に新築された校舎に移転（1937・昭和12年）したときのコース（本多町－香林坊－犀川大橋－有松－泉丘高校）を行進する。本多の森公園（県立図書館の裏）に「桜章校跡地」の石碑（創立80周年記念事業・当時の同窓会長宮太郎氏揮毫）がある。観光会館は当時の一中グラウンド。道路沿いにある老松２本と栂の木１本、石垣の基盤だけが当時を物語る。ＯＢの皆さんも行列に参加して、一泉の意気を示しましょう。

第２、３日目の校内展示では、桜美会主体の作品・一泉文庫のコーナーが設けられる。講堂ステージでも、音楽部ＯＢの出演を企画中。第４日目の最終日は、３年生の運動場での野外劇（往年の仮装大会）。これで泉丘生としてのアイデンティティを完成した３年生は、受験戦争に立ち向かう。

現在、一泉同窓会として、図書検索用のパソコンを図書館へ寄贈する方向で検討中である。

## －例年を大幅に上回る517名が出席－
## 97年一泉同窓会総会

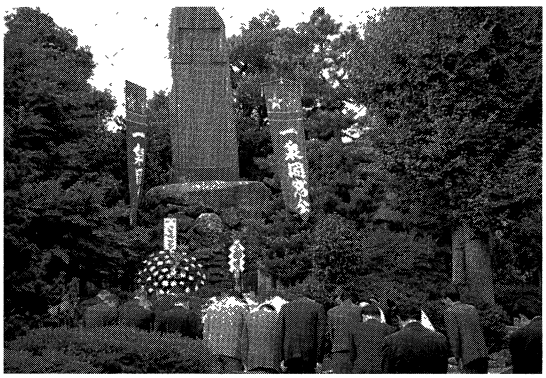
平成９年度の一泉同窓会総会ならびに懇親会は恒例の10月15日、金沢駅前の全日空ホテルで今回も盛大に開催された。

総会に先立ち、午後３時から母校前庭・厳霜碑前で物故会員追悼式が行なわれ、同窓会役員や有志、学校職員など多数が参列して今はなき会員諸兄のご冥福を祈った。

午後６時からの総会は、川北篤会長（一中55期・一高）の挨拶、竹部義晴校長の近況報告、さらに事務局からの一泉同窓会・一泉基金収支決算と事業経過報告、監査報告がなされ、いずれも可決承認された。

今年は、近年の300人台をはるかに上回る517名が出席。現役の先生方も積極的に多数ご参加下さった。平成10年の泉丘創立50周年記念祭への協力参加の呼び掛けにも世代を越えて心を一つに、一段と意気のあがる総会となった。

引き続き懇親会では、アトラクションとしての空手の技の披露、一泉合唱団の100周年記念歌「明日のＩ」のコーラスがあり、出席者の最長老吉田直茂氏（一中32期）の音頭で乾杯、和やかな宴が



進められた。

やがて例年のごとく全員が肩を組み合っての校歌・応援歌の合唱に互いの交歓はいやがうえにも高まり、午後９時、乙村董副会長が閉会の挨拶。一泉同窓会の益々の発展と会員の健勝を祈念して、めでたく解散となった。

９年度は泉丘16期が主幹事期。17、25、35期が副幹事期となって会の準備、運営に当たった。1998（平成10）年の主幹事期は泉丘17期。副幹事期は18、26、36期となる。

## ◆通信制創立50周年◆
## 記念事業準備近況報告

50周年記念事業はいよいよ開催年を迎え、準備の方も大詰めの段階に入りました。これまで７回の実行委員会を重ねて事業各部ともに具体的な作業に着手し、ほぼ順調に進捗しております。ただ募金の方が今一つ目標に届かず苦戦を強いられているところです。

また10月10日㈯の日程は午前中に学園祭、午後は谷本県知事を招いて記念式典をはじめすべての記念事業を行なうことになっています。

今後の予定として、５月に入ってから記念誌の印刷、記念碑の発注、６月に記念パーティの案内状の発送、来賓への出席依頼等が控えておりますので、募金ともども一層のご協力をお願い申し上げます。

技術の伝統を守り、郷土金沢の発展の為に

株式会社 玉　寿　司
有限会社 柿の葉寿司本舗
大栄調理師紹介所
会長・所長 寺　西　正　夫（泉丘９期）
・総本店・別館玉いきいき亭・金沢ニューグランドホテル店・競馬場内店
TEL　076－221－2644
・すし玉富山店　TEL　0764－91－1897

事務機・事務用品総合商社

株式会社 寿　商　会
代表取締役 若　林　智　雄（泉丘９期）
本社　金沢市問屋町２丁目82
〒920－0061　TEL　076（237）6266㈹
事務機事業部 TEL　076（237）6077㈹
福井営　0776（21）8640　七尾営　0767（52）5586

# 今年は40名が受賞
# 《高校総体総合成績6位に躍進》
## －第４回一泉賞－

一泉賞は、一中の「文武両道」と泉丘の「心身一如の発達につとめる」の校是に沿い、３年間を通じて学習と課外活動を両立させた生徒を対象に選考を行ない、各人の活躍を称えて贈られる。受験戦争に偏りがちな高校生活の中では、両立は困難であるが、その意味でも一泉賞の意義は高い。

平成９年度は各分野の活躍が目覚ましく、全日制37名、通信制３名が受賞対象になった。ちなみに、総合体育大会の総合得点では男子は５位、女子は10位と躍進し、総合成績では６位、公立の普通高校では桜丘の４位に次いだ。

☆第４回『一泉賞』受賞の皆さん☆

〔水泳〕毎田亜紀依、〔陸上〕田辺聖子、山下良幸、角田百合香、守紘子、宇野拓、安江慎太郎、高圭介、山本哲也、〔卓球〕森京子、〔送球〕加美多佳子、西川慶、〔柔道〕岡本琢良、〔籠球〕蟹雅代、石村雄史、〔野球〕半本隼也、〔排球〕羽柴淳、〔蹴球〕嶋田怜介、〔放送〕松田安史、喜多麻美、森田葉子、菊川佳余子、前田綾子、〔書道〕林明子、北谷志津、〔登山・生徒会〕児玉拓之、〔登山〕竹味真哲、平田隆博、上野千鶴、〔生徒会〕本橋千秋、上野真、大川竜治、清川理紗、小浦綾乃、〔JRC〕松田香奈子、岩田典子、〔囲碁将棋〕村田美穂、〔通信制課程〕宮下すえ子、赤玉千恵子、中村朔子　　以上40名

# 一泉同窓会基金
# 資産および事業内容

平成９年度中間報告

平成10年３月31日現在（単位千円）

| | | |
|---|---|---|
| 財産目録 | 基本財産 | |
| | 百周年記念特別基金 | ４０，０００ |
| | 公益信託教育振興基金 | ５０，０００ |
| | 運用財産 | １，５４３ |
| | 合　計 | ９１，５４３ |
| 平成９年度実施済事業 | 一泉賞（表彰生徒数40名） | ４２０ |
| | 教育振興・クラブ活動援助事業 | |
| | 卓球部 | １５０ |
| | サッカー部 | ５０ |
| | ＪＲＣ海外支援活動助成 | ５０ |
| | 理数科課題研究 | ２００ |
| | 国際交流活動助成事業 | １００ |
| | その他助成事業 | |
| | 図書館図書費購入費用 | １００ |
| | 遠征用送迎バス買替積立資金 | ３００ |
| | 通信制スキャナー購入費用 | １００ |
| | 合　計 | １，４７０ |

一泉同窓会基金の上記事業費に事務費を加えた年間の所要資金は200万円程度が必要ですが、現行の金利水準では、運用収益による事業規模の維持が困難な状態になると予想され、基金事務局では募金窓口を常時開いて同窓生の皆様からの協力を待っています。

一泉基金寄付（平成９年度）

| | |
|---|---|
| 和田勝（泉丘８期） | 30,000円 |
| 友寄千代子（泉丘12期）〔旧姓島野・在ブラジル〕 | 10,000円 |

剣道・なぎなた・柔道・空手・武道具全般
販売・修理
林藤武道具店
林藤正夫（泉丘９期）
林藤明美（泉丘10期・旧姓中田）
〒920－0803　石川県金沢市神宮寺町１番82
TEL　076－252－2220
FAX　076－252－2240
定休日　（月曜日）

漢方相談・21世紀型薬局
周佐堂薬局
小島與吉
（泉丘９期）
〒920－0997　金沢市竪町十三番地
TEL（076）221－9381
FAX（076）221－4593

## 【97年関東一泉同窓会総会】

関東一泉総会は10月31日西新宿のホテル・センチュリーハイアットで泉丘18期が幹事期となって〈あの頃のわたし、そして今の私たち〉「人間邂逅」のタイトルで240名余の出席を得て開催された。出席数は近年減少気味であったが、各期幹事の努力の甲斐もあって、昭和６年卒業・一中38期の大先輩から、平成７年泉丘卒業・47期の学生まで、広い世代の交流が会の雰囲気を盛り上げた。懇親会も、多彩な隠し芸披露にプロの歌手の独唱・ピアノ演奏もあるなど、賑やかなうちにも格調の高いペースで進行した。

例年のことながら、関東の総会の“会報”が楽しい。校色モスグリーンを使って印刷され、同窓のプロの編集者が編集を担当。〈あの頃のわたし、そして今の私たち〉というようなタイトルで募られたユニークな文章で盛りつけられている。

今年のテーマ「人間邂逅」とは、出会うことによってそれまで見えなかったものが見えてくる、それがまた契機となって新たなる転進の動機になるという意味をこめているのだそうで、幹事さんたちの思想の高さと配慮がうかがえた。

## 【97年関西一泉同窓会総会】

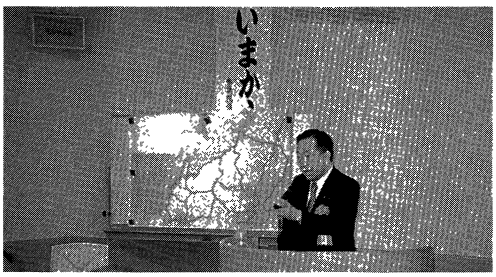
関西一泉総会は恒例に従い、６月の第１土曜日７日に、大阪城傍のパノラマビアレストランで、140名余の会員、金沢からは恩師浜名久男先生、清水教頭、浅香副会長、正村事務局長が出席した。出席者のうち大学生が17人で、例年のごとく和気藹々のうちに彼等の自己紹介が行なわれた。関西総会では学生と先輩社会人との接点があるよう工夫されている。

## 【97年松任一泉同窓会総会】

９月27日、松任市のグランドホテル松任で約90名出席で和やかに総会と懇親会が開催された。松任総会恒例のアトラクションは有益かつ魅力的である。今回は一中54期沓掛哲男氏の講演「いまからの日本」が行なわれ、日本経済の構造変化を踏まえた財政、金融、医療、老人介護、貿易、官僚、教育、外交、交通と広範囲にわたった視野での現状分析・政策立案・改革展望など政治に関心を持つ市民の一人として知っておきたい有益な内容であった。例えば、外交政策では香港返還に関しての中国の一国二制度提案と、民主主義を守らせるための監視制度を残した英国の成熟した駆引に触れるなど、興味の尽きぬ話に耳を傾けた。

## 関東一泉会会長河毛（カワケ）二郎氏講演「石川県民大学校教養講座」演題は『自分の言葉を持つ』

王子製紙の会長を勤めた河毛氏（一中43期）の話は、昭和初期の氏の青春時代の金沢に始まってグローバル化の進む現代に至るまでをたどってのものであった。敗戦後ソ連軍占領下の樺太に抑留された後の製紙工場運営の苦労、高度成長期の公害問題への対応、縮小均衡へ入りつつある日本経済の展望などを交えた豊富な内容で、その足跡からでた「その人の人生こそ言葉」という信念は感慨深いものであった。聴衆の中には一中OBの姿も多く見られた。



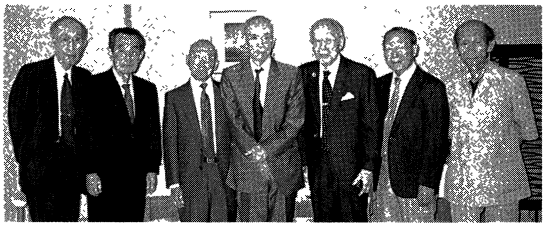
辯護士 金 川 琢 郎
（泉丘９期）
〒604－0931
京都市中京区二条通河原町西入
二条スカイビル六階
京都合同法律事務所
電 話（075）256－3501番(代)
ＦＡＸ（075）222－1969番

辻商事株式会社
辻興産株式会社
金沢アサノ運輸株式会社
代表取締役社長 辻 昭（泉丘９期）
本社 〒921－8027 金沢市神田１丁目３番５号
電話代表（076）244－4700番
FAX（076）244－5678番

# 平成９年度
# 一泉文庫寄贈・購入本

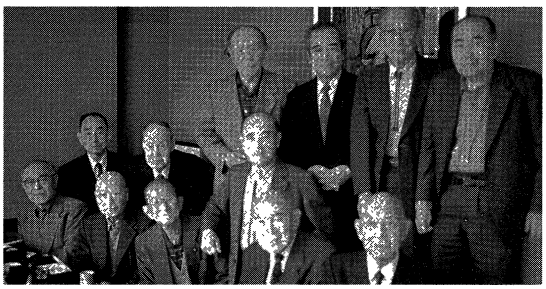
| 書　　名 | 著者・寄贈者 |
|---|---|
| 西海水滸伝 | 戸部新十郎（一中51期） |
| 徳川秀忠（上）（下） | 戸部新十郎 |
| 加賀風雲録 | 戸部新十郎 |
| 乱世の武将秘伝の処世術 | 戸部新十郎 |
| 日本異譚　太平記 | 戸部新十郎 |
| 秘剣　埋火 | 戸部新十郎 |
| アジアとのつきあい方 | 小竹昭人（一中53期） |
| 私の技術者人生 | 森田正典（一中40期） |
| グッバイひざ痛（２冊）（家庭でできる整体術） | 越田　昭（泉丘17期） |
| 交通の改革・政治の改革 | 角本良平（一中44期） |
| ハーディ文学の研究 | 大沢　衛（一中29期）購入 |
| 戯曲　銭屋五兵衛 | 永井柳太郎（一中６期）購入 |
| 吾反骨の人生 | 登谷栄作（１中46期） |
| 鮎毛バリ大図鑑 | 竹下苔石（竹下一郎）（一中51期） |
| 八重の潮路を乗り越えて | 山崎太喜男（一中51期） |
| 釧路沖地震・能登半島沖地震　－災害調査報告書 | 宮島昌克（泉丘27期） |
| 随想集　波動 | 玉村文雄（一中42期） |
| 石川県産業功労碑集 | 北村三郎（一中31期） |
| 評伝　室生犀星 | 船登芳雄（元泉丘校長） |
| 近衛文麿 | 杉森久英（一中36期） |
| 天才と狂人の間（初版本） | 杉森久英 |
| 浪人の王者　頭山　満 | 杉森久英 |
| 戦後文壇　覚え書 | 杉森久英 |
| 天才横綱　輪島大士物語 | 杉森久英 |
| | 寄贈　相坂一成（泉丘4期） |
| 愛とは何か | 小林　司（一中53期） |
| 厳霜手帳　No.７ | 金沢一中四十六回生 |
| 時はゆくよ－同期会誌－ | 金沢一中五十回生 |
| りんこちゃんの８月１日 | 村上凛子（泉丘11期）（旧姓市川） |
| とやま大くうしゅう | |
| 郷土の山岳と探勝 | 磯野三郎（一中）寄贈　相坂一成（泉丘４期） |

## 【一中39期（昭和７年卒業）関東七桜会】



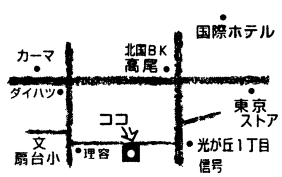
平成９年７月９日東京霞が関東京倶楽部で関東七桜会を開催した。各々八十路を越す年齢になったがそれぞれ自分なりの体調を維持し元気であった。瓜生兄が７月下旬ウィーンへ行かれるので再会の日を楽しみに別れた。〈出席者〉高松・前田・篠原・越村・瓜生・上坂・山本　　（高松記）

## 【一中39期（昭和７年卒業）金沢七桜会】



昨年10月４日全国大会を開催してから１年を経過した。この一年間に幸村、福田、張江、瀬野、南君の５人がなくなった。実に一年前に元気に出席していたのに忽然と幽明境を異にする運命なんて生者必滅とはいえ本当に儚ない人生である。10月23日地元例会を大和８階「あまつぼ」で開催した。好天に恵まれ久しぶりの会合で12名集まった。お互いの体調を話し合い往時を偲ぶ話題で楽しい一時を過ごした。南、張江兄が亡くなり七桜会の幹事役を岩脇・村田・山瀬の３人で担当することにした。180名卒業し既に127名が亡くなり消息の分かっているものは40名になってしまった。明年は全国大会を開催することに決めお互いに自重自愛体調を整え再会を祈念して別れた。〈出席者〉岩脇・川崎・塩田・高桑・長沼・西田・春木・三須・吉岡・吉田・村田・山瀬　　（山瀬記）

LPガス・灯油
水まわりのリフォーム
空調設備・家電
エネルギーを通して豊かなくらしのお手伝い
（有）水上商会
代表　水上俊明（泉丘９期）
専務　駒井公市（泉丘23期）
〒920－2103　石川郡鶴来町小柳町ろ121－１
TEL　07619－３－0234

石原写真スタジオ
open 9:30～6:30　月曜定休
石原誠志朗
（泉丘９期）
金沢市光が丘1丁目48
☎298-0093


## 【一中42期(昭和10年卒業)第25回十桜会総会】

日時：平成８年10月14～15日
場所：熱海温泉－ホテルニューアカオ

卒業35年を記念して昭和45年10月に母校の厳霜碑の前に集まった日から十桜会全国総会が定例の行事となった。皆で４半世紀も支えてきたこの集いに参会者一同あらためて友情のながさをかみしめた。又恩師ならびに仲間達の消息が判る同窓文集『十桜』25号も夫々会員へ配布、発送済。

藤田誠一先生ご夫妻が相変わらずお元気なお顔を見せて下された。卒寿になられた藤田先生が、出席した十桜会員のために傘寿の我々を励ます色紙を御揮毫された。題字を「五福」として先生の号即ち誠山のご署名を添えられた。出席者一同恐縮した次第。出席総員は先生ご夫妻をはじめ37名であった。

ホテルニューアカオは熱海の錦浦海岸に面し、25万坪の曽我ナチュラルパークなどがあり、散策も考えたが当日雨天のため、バスから眺めるだけで、久しぶりの集いであったので、夜の更けるのも忘れて語り合った。

来年は金沢市郊外湯涌温泉「湯の出」での第26回会合を約して解散した。（久保田全俊記）

出席者［北陸］藤田誠一夫妻、井口千里さん、八日市屋由紀子さん、梶川欽一郎夫妻、浅本行雄、柿木義夫夫妻、葛西満、久間賢三、駒居三郎、坂本六郎夫妻、高畠有幸、東勉、室木弥太郎、諸江敏夫夫妻、八尾孝一、［関西］酒井正、二口一雄、［中部］沖野永保、［関東］上島外二、久保木信夫、久保田全俊、鴻野五八夫妻、坂部重之、中谷郁夫、中谷外作、西村忠恭、古沢英雄、松本順、山内亮、山本欽一、米山兵吾

（なおこの報告は編集部不手際で掲載が１年遅れました。）

## 【一中42期(昭和10年卒業)十桜会総会】

日時　平成９年10月13～14日
場所　湯涌温泉「さかえや」

毎年恒例の十桜会も今年は吾々の大半が80歳（傘寿）を迎え又当会には欠かさずご出席の恩師藤田誠一先生の満90歳（卒寿）という二重の芽出度い節目に当たり、藤田先生ご夫妻を始め同伴御夫人や、（故）吉田正一・井口鉄男両夫人のご参加もあり総勢50名で全館貸し切りの多数の出席となり幸い秋爽やかの好天にも恵まれ盛会となった。会場受付で本年度の第26回会誌『十桜』と会員玉村文雄君の随想集『波動』及び山本欣一君の全国発明コンクール「特別賞」と「アイデア作品賞」受賞のパンフレットを全員に渡す。開会に先立ち吉村元一・三浦彦則両兄のご冥福を祈り黙禱を捧げる。

梶川会長の挨拶、藤田先生へ卒寿記念の目録贈呈、先生より励ましのお言葉、幹事の経過と会員の動静報告がある。続いて祝宴に入り、「さかえや」自慢の趣向を凝らした京風特別会席で盃を重ねる程に、青春時代の懐旧談、歌曲、輪踊りで盛り上がり、又特別出演として久保田幹事の師匠直伝の鮮やかな手品に一同感嘆し、校歌、応援歌を合唱して散会後幹事室に集合、２次会で気勢をあげ、互いの健康を祝して秋の夜長を堪能した。

翌日朝食時に傘寿記念の「特製テーブルセンター」を配り、又関東の古沢幹事より来秋の会場について提案があり、後日各地区の希望を集約することとし来年の再会を約して閉会した。

出席者　藤田先生ご夫妻、吉田道子さん、井口千里さん、［関東］久保木信夫・久保田全俊夫妻・鴻野五八夫妻・坂部重之夫妻・中谷郁夫・中谷外作・西村忠恭・古沢英雄夫妻・山崎太喜雄・山本欽一・米山兵吾、［北陸］浅本行雄・柿木義夫夫妻・梶川欽一郎夫妻・葛西満・笠間国威夫妻・久間賢三・小泉甚三・駒居三郎・坂本六郎夫妻・柴野勇・高木弘幸・高畠有幸・東勉・細木忠清・松本芳士・諸江敏夫夫妻・八尾孝一・船田一雄夫妻、［関西・中部］沖野永保・酒井正・清水大六夫妻・玉村文雄夫妻・二口一雄（以上50名）

（諸江記）

三計企業株式会社
大窪紀吉
（泉丘10期）

空調設備設計、施工
業務用加湿機製造、販売
北陸菱和システム
代表者　安野喜隆（泉丘10期）
〒921－8164　金沢市久安３－208
ＴＥＬ（076）247－0074
ＦＡＸ（076）247－9740

## 【一中47期(昭和15年卒業)15桜会総会】

平成９年４月10日（木)、兼六園の桜花が満開となった。近くの金沢シテイモンドホテルにて本年度の同期生総会を開催した。昨年の有馬温泉の総会の時、関東、関西の同期生から、毎年持ち回りを、今後は故郷でやることにしてはどうかとの発言により、今年は金沢で開催することになった。

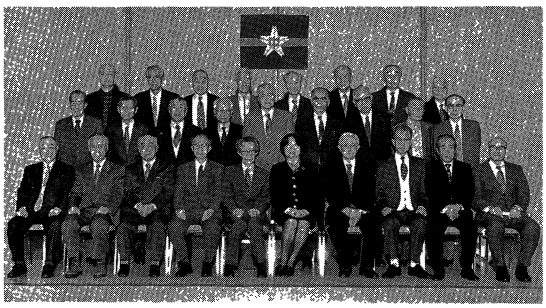
当初は30名出席の予定であったが27名となり、定刻18時にホールで記念撮影をして13階兼六の間で同窓会を開いた。

大屋信之幹事の司会で地元を代表した大蔵吉夫幹事から挨拶と現況報告があった。続いて関東の現況について深見信一君から報告があり、昨年急逝された同期生故尾山義人君、故北修君、故篠田修君、故宗弘進吾君の４名のご冥福を祈り全員で黙禱を捧げた。

関西の木村和義幹事の音頭で乾杯をして祝宴に移った。まず木村茂男君の謡により幕をあけ、引き続き地元金沢の女性歌手北浜とみ子さんの懐かしのメロディによる歌謡ショウーを堪能して昔の若い頃を偲んだ。

続いてマイクをまわして各自の近況や、一中時代や軍隊時代の懐かしい思い出などを語り、同期生しか味わえない共通の喜びを味わったが、多くの発言は、今後の健康管理や元気で一日もながく生きて再会しようということだった。最後に一中校歌を高らかに合唱して閉会した。

出席者［関東地区］(６名）太島金治、中川智雄、中村達、新田正之、深見信一、鉾田太郎、［関西・中部地区］(３名)木村和義、那谷敏郎夫妻、［金沢地区］(18名）飯田久、石崎幸男、石橋鐐造、大屋信之、大谷渉、北川伴次、木村茂男、木村久吉、島村隆、鈴木信義、中條英一、中村吉次、松林禧作、三須徹　　（大蔵吉夫記）



## 【一中50期同窓会〈昭和18年卒業〉】

平成９年９月11日に、私たち50回生の今年度の同窓会を湯涌温泉の秀峰閣で開いた。直前に３名の取消しがあって結局出席者は34名であった。先ず幹事長の西坂兄が会計と経過の報告を行なって、懸案の『時はいくよ』続編は既に編集委員が検討を終り、製本の段階に入っているが、ゲラ刷りの三部を持参したので、出席者は各自の投稿文を再確認して欲しいと要請した。次いで勝田（筆者）が一泉同窓会の動向について説明し、明年は泉丘高校の創立50周年記念祭が行なわれるが、これは学校および在校生が主体となって行ない、一泉同窓会はその費用の一部を援助する程度とする予定であると伝えた。

以上で米谷兄の乾杯の音頭で酒宴に入り、お互いの健康や近況等について、盃を傾けながら語り合い、例年の太田兄の音頭により一中応援歌の合唱で楽しい一夜の幕を閉じた。

翌日は希望者20名余りが勝田（兼六園研究会の会員）の案内で、小立野料金所から兼六園に入った。遠来の諸兄の中には一中在校時以来の入園という人もいて、勝田の各所の説明に熱心に耳を傾けていた。可成り暑かった為、山崎山、鶴鴫島、日本武尊像、七福神山、霞ケ池などを見て回ったが、少し諸兄に疲れが見えた。兼六園を出て護国神社境内にある白嶺会館で昼食をとり、来年関東での再会を約して解散した。（勝田博記）

〈出席者〉市野孫之亟、伊藤富夫、上田恵、大岩利麿、太田重雄、大谷政信、大森三郎、奥清明、改田直已、勝田博、茅野正、小中伸夫、米谷半平、小柳章、酒井清志、杉山直弘、高田外代次、橘喬、辻正司、寺田猛、西坂弥三郎、新田史郎、野崎実、畠一平、藤浦鋭夫、藤田義雄、藤本由隆、堀吉彦、松江重隆、南野清一、安田俊男、安原一男、山田順、横川政治

NITTO
表面処理資材綜合商社
専門分野で未来を創る。
日砥株式会社
専務取締役 水谷 隆（泉丘10期）
〒920－0862 金沢市芳斉２丁目５番39号
ＴＥＬ（076）263－3476（代）
ＦＡＸ（076）222－7423

建築・土木資材
株式会社 長井金属
代表取締役 長井 宏（泉丘10期）
〒920－0346 金沢市藤江南１丁目112番地
TEL（076）232－3889㈹
FAX（076）232－3879

## 【泉丘６期(昭和29年卒業)ふくせん会の旅】

真冬の日本列島から赤道を越えて、夏も真っ盛りの豪州へー。

昭和29年３月に卒業した同期生の集いである「ふくせん（二九泉）会」は、２月17日から22日にかけケアンズ・シドニーの旅を満喫した。

「ふくせん会」の海外旅行は一昨年のハワイに次いで二回目。豪州の旅の参加者は、ハワイより少なかったものの、24人とグループとしてはうってつけの人数。

観光のコースはバロン渓谷国立公園、コッパロード見晴らし台など（以上ケアンズ）オペラハウス、ハーバーブリッジなど（以上シドニー）の他オプショナルツアーで、海と山のアドベンチャーと“豪州の表の顔”をつぶさに見て回った。

「同期の桜」は友情も格別。食事のときなど話題になるのは、母校の発展ぶりや、友の消息で、異国の地で交わすグラスの味がまたたまらない。

サミュエル・ウルマンにあやかるまでもなく、“壮春”のこの思いを胸に刻んで、次の機会に三度元気で顔を合わせようと誓いあった。(藤井記)

## 【泉丘10期（昭和33年卒業）泉寿会】

母校を巣立って以来、この３月で満40周年の歳月が経った。主に己卯と庚辰年生まれの泉寿会員（卒業者数512名。物故者22名。所在不明者23名）。

97年８月１～２日。辰口温泉・たがわ龍泉閣吉祥亭において56名が集い、40周年記念総会・懇親会を盛大に開催した。関東泉寿会員のフラダンスの妙技や恒例のビンゴ・ゲーム、ホールでの二次会……。

懇親会に先だち17名が参加してゴルフコンペ。ホールインワンのおまけつき。翌日は、泉丘高校コースと辰口にある福祉施設・星ガ岡牧場と松任のキリンビール工場コースに別れて見学。

１月の最終土曜日と日曜日は、金沢と東京で恒例の新年会。出張の途中で金沢へ下車、翌朝東京へと新年会をハシゴした会員もいる。

関西泉寿会も来る５月29～30日に、白浜温泉のよみうり白浜クラブにおいて、総会を開催予定。

来年は還暦の年回り、泉寿会の絆はより一層強いものとなるであろう。

泉寿会では、『一泉』が発行される度に、毎回全会員に送付している。『一泉』26号は、９・10期が広告担当。各期４～８件・12万円の割当て。幸い泉寿会では、９名の会員、計13万5,000円のご協力を得ることが出来た。　（浅香記）

長森労務管理事務所

長　森　敏　秦
（泉丘10期）

〒102－0072　東京都千代田区飯田橋３－４－４
ＴＥＬ　03（3264）8960

複写機・FAXの御用命は

㈱　小　　泉

代表取締役社長　小　泉　重　紀（泉丘10期）

金沢市尾山町10－15　ＴＥＬ　076－262－0111

社会福祉法人　佛子園

理事長　雄　谷　助　成
（泉丘10期）

仏子園　星が岡牧場　日本海倶楽部
松任市　辰口町　内浦町

## 【五泉倶楽部（泉丘18～22期）発会式】

去る2月21日（土）、関西一泉同窓会メンバーのうち、泉丘20期生を軸にして前後2期、すなわち18期から22期までの5期合同の同窓会を開催。名づけて「五泉倶楽部」。場所は大阪南の心斎橋ライブハウス「ケントス」で。12時45分から受付、1時から開会。38名が参加した。まず発起人の20期の代表者が挨拶。続いて乾杯のあと、軽食を取りながら自由に歓談。しばらくして、期ごとに前方に出て自己紹介を行なった。参加者は22期7名、21期5名、20期14名、19期8名に18期4名で、ほとんどが北陸出身の関西人として、この地に骨を埋めるつもりの人達。そのためか、安堵感・親近感ただよう落ち着いた雰囲気のなかで、楽しい話ができたと思うのは私だけではあるまい。期を越えたネットワークも次第にひろがった。

後半はケントス所属の生バンド演奏が始まり、ベンチャーズを皮切りに、懐かしの60’sの曲が次々に流れ、気分は次第にあの頃に。そのうち身体のほうもあの頃にもどってか、バンド演奏に合わせて全員がフロアで、ゴーゴーやツイストと汗ダクダク。ものすごい！盛り上がりを見せ、アッという間に3時の閉会を迎えてしまった。その後は各期ごとに分かれて南の街中へと解散。

今後毎年行なうことを約束して。次期幹事は21期。実に楽しい午後であった。

岩越美恵（泉丘20期）

## 美の同窓会「桜美会」
### 新人加入、大歓迎！

1973年11月、香林坊大和での出品点数131点、会員数42名、桜美会展がスタートした。その後78年から地元有志による小品展も毎春開かれるようになり、今年、桜美会展は26回展の開催となります。

一中、泉丘高校の美術教師であられた宮沢外与治先生が初代会長で、宮沢先生に直接教えを受けた一中・泉丘の美術部員の卒業生たちが会員でしたが、その後、卒業生であれば会員の資格ありということになり、現在110名余の会員数になりました。最高年齢会員は、一中を1930年卒業、やがて米寿の笠嶋伍郎氏で大作出品の常連です。名誉会員としては、人間国宝の截金細工の故西出大三氏、同じく刀剣の隅谷正峯氏、金沢美大名誉教授油絵の故竹沢基氏、二紀会審査員堀義雄氏が在籍しておられます。

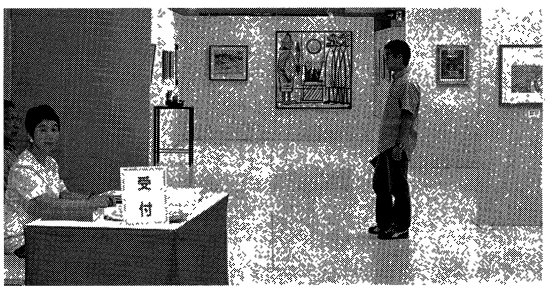
年間の主な行事としては、
《春5月頃・小品展》《秋9月頃・桜美会展》
《10月頃・一泊のスケッチ旅行》

そして総会・懇親会・忘年会・新年会などが和やかに行なわれています。年間会費は6,000円、出品料5,000円です。

今年の泉丘50周年記念としての第26回桜美会展では、在校生諸君の若さにあふれた作品も一緒に展示し、文武の道を一筋に、何事にもナンバーワンを目指した一中生のパワーと「心身一如」の教育目標を実践してきた泉丘50年の姿を世に示し、母校の21世紀への更なる飛躍の一助になればと願っております。在校生、そして卒業生の皆さん、絶大なご協力をお願いします。

以上、今年相次いでご逝去された名誉会員故竹沢基氏、長く桜美会会長であられた故石田直行氏を偲びつつ、美の同窓会「一泉桜美会」の活動についての報告といたします。

桜美会代表幹事　藤井肇（泉丘4期）
TEL076－241－3641



## 倶楽部の思い出

一中33期　藤田誠一

大正13年の千歳倶楽部員・後列右端が藤田誠一氏

平成も後数日で2桁になろうとしています。年の瀬ともなれば無性に昔が恋しくもまた懐かしくなって参ります。私も既に卒寿を越えて次は……？と考えている昨近です。

生涯幾千幾万の方々と交わって参りましたが最も懐かしく思い出されるのは、一中時代の仲間たちです。中でも千歳（チトセ）倶楽部に入った同期の5名の者は互いに生涯心の友として永く交わって参りました。

当時の倶楽部については、千歳の外に鎧袖、大和、彗星等がありました。互いに勢力拡張のためか、常に相反目し抗争を続け学校当局から不良集団として解散を命ぜられたことも幾度かあったようです。

昭和38年10月に作られた千歳会会員名簿には20期から41期までの会員78名と物故者33名の名前が載っています。

大正4年に始まった金石の学生相撲大会を契機として数多くの応援歌が作られたようですが、その大半は当時の在校生の作であったことを思うとき、いかに文才に勝れた方が多かったかと敬服致しております。以下名簿に記された千歳会会歌を披露致します。河南志郎作とありますが、河南拓氏（一中21期・大正2年卒業）のペンネームではなかろうかと思われます。

千歳会会歌（抄）

一、輝く朝日野に充てば
　世は紅の夢の花
　扶桑八朶の曙は
　そも千歳の章なれ

二、げに光陰は軽からず
　駒のあがきを打ちそろえ
　外国人も高麗人も
　心へだてぬ人の道

三、春夏秋冬ひたぶるに
　めぐる轍の絶え間なく
　身を蛍雪の窓にせば
　自ら萬象開かれん

八、ああ北海の荒波に
　生まれて咲きし集まりは
　その名も遥か千歳と
　たゝえて広く示すらん

倶楽部については『一泉百年史』に詳しい。千歳会会歌は八題目まであります。ご希望の方は同窓会事務局までお問い合わせ下さい。

## 張江啓先生を悼む

平成9年6月22日、張江啓先生（一中39期）が逝去されました。ここに一文を草して心から哀惜致します。

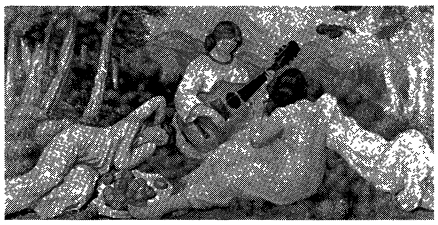
先生は昭和20年暮れ、敗戦のショックと精神的な混乱、物質的な貧困のために右往左往していた我々一中生の前に颯爽とした青年教師として立たれたのであった。なにしろ海軍兵学校教官（海兵は戦時中の中学生の憧れの的だった）だというので就任の初めから一目置かれる存在だったようである。その言動は直截明快で自信に満ちていて厳しかった。一面スポーツを愛し、水泳やバスケットボールを楽しまれたようだった。

昭和23年11月教育委員会法が施行され、石川県でも教育委員会が設置され、初代教育長に元第四高等学校教授で新制の金沢一高初代校長の大河良一先生が就任された。先生は昭和24年4月から発足する　①学区制②総合制③男女共学の3原則に基づく新制高校の理念として、旧制中学の延長ではなく、旧制高校の人格陶冶に基づく人間形成という高邁な理念を掲げて、旧制高校・帝大出身の新進気鋭の人材を主要高校の校長に抜擢されたと聞いている。張江先生もこの方針に則って弱冠34歳で県立飯田高校長に就任、その後教委と高校長を行き来され、昭和41年泉丘高校長にご就任、県高校長協会長をも兼任され、昭和50年3月定年退職された。その間9年間私事ながら親しくご薫陶を頂く栄に浴しました。

先生は公私を峻別し、部下にもそれを厳しく求められた。反面積極的に生徒の輪の中に入って行かれた。規律と豊かな人間味の調和を先生は追求しておられたと思う。その厳しい自己抑制と豊かな人間味の調和を顕彰して、拙文の筆を擱くことにします。

一中56期・泉丘2期　普神貴行（元泉丘高校教諭）

## 『伊東哲と石川洋画の先駆者展』



「高原」大正9．第2回帝展入選　石川県立美術館蔵

伊東哲は石川洋画の先駆的画家であった。伊東の家は平安時代、京都の男山八幡宮の荘園の管理のためにこの地に赴任したのが始まりだそうで、以来連綿と金沢市の北端の山あいで暮らしている。

伊東哲（一中16期）は私の夫の祖父の弟にあたる。明治24年生れ。男ばかり5人兄弟の次男で一中卒業後東京美術学校に学んだ。伊東の家が地主として最も栄えた頃で、5人兄弟はみな一中出身。通学のために金沢に家を借り、お手伝いさんまでつけていたそうだ。

しかし伊東哲は不遇の人であったようだ。美術学校在学中から帝展に入選。その後も入選を重ね将来を嘱望されながら、“柳原白蓮事件”で中央画壇を去っている。第八回帝展作品で、森の中で詩想に耽る柳原白蓮を描いたが、これが売名行為と誹謗中傷を浴びたのだそうだ。また戦災で何百枚という油絵を消失。夫人と長男にも先立たれてしまった。

伊東の家の蔵や屋根裏部屋はあたかもタイムカプセルのようである。昔の人が袖を通したであろう黴臭い古い着物、明治の人が書き残した手紙の束、ガラス板の写真ネガ、どれもこれも私を魅了する。それらに混じって油絵も散在していた。富士市の我が家に借用してきて、額に入れて飾って楽しんでいるうちに、それらの絵にすっかり魅されてしまった、と同時にこのような深い人間洞察力を持つ画家にとても興味を持った。やがて前述のようなことを知るに至った次第である。

「自画像」大正2．石川県立美術館蔵

3年前、夫と共に親戚に残っている作品を訪ねて写真に撮り、手製のささやかな『伊東哲画集』を作って関係者に配った。石川県立美術館にも送ったところ、“未見の作品が多くあり、貴重な資料”と思いがけない評価を頂き、この度の展覧会につながった。展覧会を通して、多くの方々に埋もれた作家の作品を見て頂けたことは、大変うれしいことでした。

“一泉桜美会”の皆様にも足をお運び頂きましたこと、ここに厚くお礼申し上げます。

伊東千佳子（泉丘17期）

1897～1911（明治30～44）年まで、図画の教師として金沢一中で教鞭をとった佐々木三六先生は、1875年から6年間イタリアのトリノの美術学校で学んだ画家であった。当時、日本に数えるほどしかいなかった洋画家を迎えて金沢一中生は相当な刺激を受けたらしい。大村周二（一中11期）、布目敏行（12期）、伊東哲（16期）等の洋画家が輩出し、中央画壇で名をあげ石川県の輝ける星となった。しかし彼等は昭和に入ると惜しむらくは中央画壇から去った。

1927（昭和2）年、本文の事件の故に中央画壇を去った伊東は、1930（昭和5）年、台湾で嘉南の地に巨大なダムと用水網を建設中の技師八田与一（一中11期、伊東の親戚）氏に招かれ渡台した。その為、現在も台湾の嘉南農田水利会の会長室に伊東哲による八田の肖像画とダム工事の油絵が残っている。

八田技師は、1942（昭和17）年5月8日乗船した輸送船が潜水艦に雷撃され、戦没した。水利会主催の八田技師の墓前祭は、命日に偉業と遺徳をたたえ現在も続けられている。

伊東画伯は終戦で引揚げたが、作品は東京のアトリエに残しておいた分も、中国でのものも戦禍で失われてしまった。戦後は水彩を専らにし、画壇への出品は一度きりであったという。

伊東千佳子（泉丘17期）さんの発掘で埋もれていた伊東哲氏の初期の作品群が世に出たのは誠に感動的であった。

なおご遺族から水彩画を2点校史資料室に寄贈頂いた。

ナカヤコンサルタント
中屋松一
（泉丘10期）
開発行為の設計資格者登録、石開設第182号
一級建築士事務所　石川県知事登録第1704号
土木建築造園調査設計監理
事務所　〒926－0014　七尾市矢田町2－10－4
フオンテーヌ矢田201　☎（0767）53－3610
羽咋分室　羽咋市南中央町キ154和田ビル2F（0767）22－5977

和風・洋風・半月・折詰・弁当・出張パーティ
各種会合・懇親会（コンパ）等
ホーム・くっく
すき焼
しゃぶしゃぶ
除夜鍋
御狩場焼
有限会社　わかばやし
若林茂樹（泉丘10期）
新竪町小学校隣り　TEL（076）231－2787
御座敷別館　TEL（076）261－5417
FAX（076）264－2522

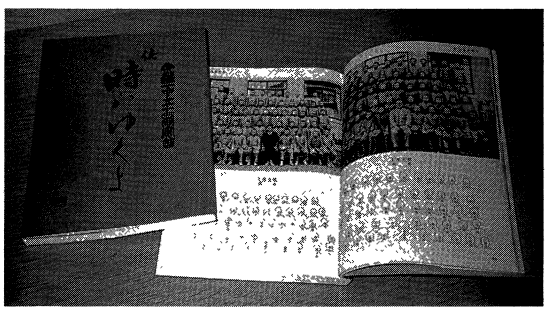
## 金沢一中46期生の記録『厳霜手帳』

1991（平成３）年「アンビシャスボーイ達、古希を迎えて」の副題で発行された『厳霜手帳No.１』。以後毎年編集され、1997（平成９）にはNo.７が発行された。同期の木版画家坂本翔仙（仙之介）氏の金沢市内の懐かしい風景画が表紙と頁を飾る。毎号、同期生たちから文章を集められる編集者の御苦労は大変であろう。しかし、それぞれの虚飾のない文章に人柄を感ずる。各号のお一人の文章を順に追うとさらにそれが深くなる。戦争を経験しなかった若い世代はこんなふうに人生を見つめられるだろうかと思う。

## 金沢一中50期生の記録『続　時はゆくよ』

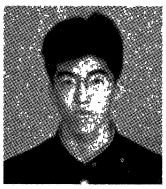
1989（平成元）年に一中入学50周年の記念文集『時はゆくよ』を発刊。今回は古稀記念の第２集。『時はゆくよ』の題は、昭和初期の金沢一中生にもっとも大きな感化を及ぼした先生の一人、英語・音楽担当であった山本協一先生のプリントの楽譜から採ったもの。

一人ひとりの文章の視点は多様であるが、総合すると一中スピリット醸成の戦中から飽食の現在に至るまでの歴史の流れになる。日本の現在の窮状を冷静に観察し、未来に思いをはせた文章はどれも味わい深い。1991（平成３）年に、この期の代表の方々が泉丘高校を訪れ、現役の生徒の有志と話し合いの会を持っている（一泉19号掲載）。




## インドで行方不明の高口和生君

（泉丘47期　1995・平成７年卒業）



京都大学法学部生（現在休学中）の高口和生君は1996（平成８）年９月インドへ一人で旅行にでかけたまま行方不明になり、まだ分かっていません。最後の足取りは中部インドのベナレス近くのサルナートで日本人僧侶が見かけたということです。ご両親やサークルの仲間が捜索活動を続けられましたが手掛かりを得られません。

身長173センチ、体重58キロ、面長

高口家自宅　TEL076－264－8247

（金沢市長町１－５－50）

詳しい情報はインターネットのホームページで説明しています。

（URL）http：//www.bekkoame.or.jp/~t_fujimoto/takaguchi/indexjp.htm

〈編集後記〉

伊東哲画伯ら金沢一中先輩たちの美術界における活躍は、郷土史家であった故山森青硯（一中33期）氏が調べられている。台湾における八田与一氏の業績は著名である。しかし、このお二人が深い関係にあったことには縁の不思議さを感ずる。

一泉25号の１ページにある通り、今井あかね（泉16期）さんのおかげで、1951（昭和26）年の原譜に戻った泉丘高校校歌の合唱譜の印刷ができた。安藤芳亮先生の美しい曲の復活をよろこびたい。希望者は事務局に申し込んで下さい。

事務局として少々気になることがある。名簿会社と思われる電話が事務局の名をかたってしきりにＯＢ現役大学生の所属学部や下宿先を調べている。卒業生の振りをして名簿を事務局に申し込んでくる場合もある。

２年前は、明らかに現在裁判で係争中の宗教団体が理工系の学生を求めて、事務局へきた。用心するに越したことはない。　（正村記）

次号の広告は泉丘11期・12期（各期12万円）にお願いします。

『一泉』編集室
正村　健三（泉丘４期）　浅香以都子（泉丘10期）
小林　弘子（泉丘12期）
**題字**・坂野　雄一（一中54期）